



1636年～1869年(約230年)

伊予西條藩を知る ④

(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家

初代藩主 松平頼純 (在任期間 1670～1711年)



徳川御三家の一つ紀州和歌山藩主・徳川頼宣(よりのぶ)の二男で、徳川家康の孫にあたるのが伊予西條藩初代藩主 **松平頼純**(よりのずみ) です。紀州において京職である **左京大夫**(さきょうのだいふ) に任ぜられ **5** 万石を分知られていたが、一柳家の改易から西條藩は天領となり **5** 年を経た寛文 10 (1670)年2月に、紀州藩の支藩として新たに伊予西條藩 **3** 万石(合カ米 2 万石と併せ **5** 万石)を与えられ、紀州徳川家(紀州藩主)が途絶えた場合に備えた藩であった。

※松平頼純以降、「**左京大夫**」の職は、歴代藩主に代々継承された。

歴代西條藩主は**江戸定府・大広間詰**という高い格式を与えられ、参勤交代をすることがなかったの
で、藩主の入国はまれで生涯を通じて領国に足を踏み入れない藩主もみられたが、初代藩主松平頼純
の入国は歴代藩主の中で最多の **5** 度(寛文 10 年、元禄 7 年、元禄 11 年、元禄 15 年、宝永 5 年)
に及び、また、最初の入国の際には、紀州松平家の教育理念を元に、領民の生活の規範(教訓)とした
父母状 を頒布するなど、藩主としての意欲を示している。この「**父母状**」の内容は、

**父母に孝行に、法度を守り、へりくだり、奢らずして、面々家職を勤、正直を本とする事
誰も存知たる事なれども、弥能相心得候様に、常々可申聞者也**

現代文にすれば、「父母に孝行し、法を守り、質素に、家業に勤め、正直に暮らすことは、誰でも知っていること
ではあるけれども、しっかりと心得るように常々言い聞かせなければならない」というような意味になります。

※元禄 4 年頼純治政中、別子銅山が大坂住友家によって開かれる。

かつて青山学院大学(東京都渋谷区)の敷地は、江戸時代ほぼ全域が**伊予国西條藩松平左京大夫江戸上屋敷**(4 万坪)であった。西條藩松平家は、定府大名であり参勤交代の義務はなく、藩主と家族・定府の家臣は、ほとんど江戸の上屋敷で暮らしていました。

1871(明治 4)年、西條藩上屋敷跡地 4 万坪のうち 3 万坪は、北海道開拓使の「第一官園」と称される農業試験場となり、その後 1882(明治 21)年に開拓使が廃止、早々と北海道に移転したあとの空いた敷地に目に付けたのが、合併を目指して新校地を探していた、横浜山手に開校していた「美會神学校」と、東京築地にあった「東京英和学校」で、これがのちに青山学院大学の原形となりました。それ以来、青山の地は**青山学院大学** の中心となりました。

→江戸切絵図(嘉永6年) |

東都青山絵図(国会図書館より)

